



春からの生活に期待と不安が交錯するこの時期。特に高校入学前は気持ちの揺れが大きいですね。

以下に中学不登校を経験して高校に進学した先輩方のエピソードをご紹介します♪

お子さん一人一人違うように高校進学後の様子もさまざまです。

それぞれの自分らしい道が見つかるといいですね。



私は中学2年間不登校で過ごしました。勉強は嫌いではなかったのに学校に行けなくなった時、真っ黒な墨汁の入った大きなバケツにポチャンと落ちてしまった気持ちでした。

高校に入る時は不安と期待でドキドキしていました。入学当初は学校が怖いと思い、学校に行きたくない、と母に言いました。母は、私の気持ちをそのまま受け止めてくれた上で、「せっかくやから行ったらどう?」「学校まで一緒に行くから行こっ」とさりげなく背中を押してくれました。そして、最終的には母は私が自分で決めることを尊重してくれました。

それから何度か母に車で送ってもらったりもしながら、徐々に学校に慣れ、友達にも恵まれて楽しい高校生活を送れるようになりました。

私の周りには英検や漢検に取り組んだり、放課後残って熱心に勉強するなど意欲的な友達が多くいます。そのおかげで私にもどンドンやる気が出て、今では勉強も学校行事も頑張っています。

中学の頃は自分より少しでも上の人があると、「自分はなんてダメなんだろう」「自分は何もできない」と思っていました。でも、今では自分より上の人がいっても「自分はこれだけ頑張ったし!」と思えるようになりました。

人と比べて悲観的にとらえることが減り、自然と力を発揮できるようになった気がします。

自分がこんなに成長するきっかけを作ってくれたのは中学の時の不登校だったと思っています。人と比べて自分を見失わないようになったこと。友達といい人間関係をつくれるようになったこと。あの苦しい不登校がなかったら今の自分はなかったと思っています。

【母のコメント】

高校のスタートが思うようにいなくても、我が子のペースを大切に、焦らないことが大事だと感じます。

私は一般の子と比べないようにしよう、以前の我が子の姿と比べようと思っていました。以前の姿を思えば、どんなささいな姿も「進んでる、進んでる」と思えました。「これだけ出来ただけでも進歩」ととらえる事ができました。

私は中学時代、学校に通えなくなり、長い間家で1人で過ごしていた時期がありました。

高校こそは!と新しい気持ちで全日制高校に進学しましたが、コロナもありなかなか高校生活を楽しめず、途中で行かれなくなり、通信制高校に転入しました。

そんな中、アルバイトを始めようと勇気を出して接客業に応募しました。苦手だと思っていた接客でしたが、やってみると意外にも評価されることが多く、同期の中でいち早くリーダーに昇格でき、大きな自信につながりました。

中高時代を振り返って思うことは私は「学校」という場より「働く」というスタイルが合っていたということです。

不登校の間は絶望感でいっぱいでしたが、あの時に悩んだことは無駄ではなかったと思っています。

【母のコメント】

高校入学時は、中学の分を取り返そうと親も子も大きな期待を抱いていました。

コロナ禍でのストレスの高い高校生活のスタート、遠方の私立高校への週6日の通学、本当によく頑張ったと思います。我が子にこんなに力があつたのかと思ひ知らされました。

紆余曲折がありましたが、転機に度親子で一緒に悩み、考えて答えを出してきました。

何度も転び、何度も起き上がってきた経験を今後の生きる力にしてほしいと願っています。

★次回は3/18(土) 10:00~11:30 玉泉苑にて開催♪

気になる子どものための親育ちの会「はるにれ」代表 巽 敦予

